

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702602		
法人名	有限会社星ヶ丘		
事業所名	グループホーム星ヶ丘		
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区星ヶ丘三丁目5番21号 (電話) 093 - 617 - 4808		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	9月1日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 4人, 常勤換算 3.3人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレハブ造り 2階建ての1階～2階部分		
------	----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円/28,000円/30,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費12,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	6名	男性	5名	女性	1名
要介護1	2名	要介護2		2名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 81歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院・かつき脳外科整形外科・黒崎整形外科病院・あかま歯科ク
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム星ヶ丘は八幡西区の閑静な新興住宅地に立地する、民家改造型の6人の少数定員で「第2の住まいとさせていただけるホーム」を目指し運営を行っている。少人数のため、その日の天気外出するなど、少人数の良さを活かしたフットワークの軽さがアピールポイントとなっている。食事は、栄養バランスに配慮し、バラエティに富んでおり、入居者の楽しみになっている。近郊の市民センターの毎月1回開催される「ふれあい昼食会」には、入居者全員が参加し地域の方とのふれあいの場となっている。地域密着型サービスとして、今後はさらに認知症の理解を育むために地域への情報発信が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎年行われる外部評価の意見を参考に、状況に応じて課題を見直し取り組んでいる。また、運営推進会議で自己評価・外部評価の結果を報告し、「第2の住まいとさせていただけるホーム」づくりに努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関しては、開設3年目を迎え、グループホーム運営の実績を地域へ貢献することや重度化・終末期に対する指針の整備など課題が明確に出ており、今後の取り組みの方向を検討している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームの理念の説明や活動報告などを行い、グループホームの理解を育むように努めている。地域や行政との情報交換の場として大きな役割を果たしている。今後は、認知症の理解をさらに高める役割を果たしながら、地域の理解と支援を得るための機会として活かしていくことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは定期的に近況報告を行っており、苦情があった場合には、迅速に対応できるように苦情対応マニュアルを作成している。また、運営推進会議において、家族が意見や要望を言ってもらえるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、町内会の清掃活動に参加している。市民センターの月1回の「ふれあい昼食会」に参加したり、週に1回、介護付有料老人ホーム・クレアールとの連携により、クレアールでのレクリエーションに参加し、ふれあいの機会や場を広げる努力をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は入居者の暮らしを支えることを基本に自己選択・自己決定を尊重し、自立へ向けての支援を掲げている。制度改正によりグループホームの基本方針は、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、地域との関係性が重視されるようになったが、その点で理念において地域との関係性・地域密着型サービスとしての果たす役割を目指した内容が求められる。		平成18年の法改正で新設された地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念の内容になっていることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は、日頃の業務の中で振りかえり、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設3年目を迎え、積極的に地域行事へ参加するなど、地域との交流も図っており、地域の方々の見学も増えている状況にある。子ども達の安全のために「こども110番」の家として協力し、地域貢献も行っている。		グループホームの前に大きな看板を設置し、グループホームの理解を深める内容を掲示している。現在の看板を活かし、「介護にお困りの方はご相談下さい」など、グループホームのノウハウを活かした取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年行われる外部評価の意見を参考に、状況に応じて課題を見直し取り組んでいる。また、運営推進会議で自己評価・外部評価の結果を報告し、「第2の住まいとさせていただけるホーム」づくりに努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの理念の説明や活動報告などを行い、グループホームの理解を育むように努めている。地域や行政との情報交換の場として大きな役割を果たしている。今後は、認知症の理解をさらに高める役割を果たしながら、地域の理解と支援を得るための機会として活かしていくことが求められる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市介護保険課とグループホームの運営面の相談など、情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては、過去及び現在共に利用される方がおらず、資料などを手元に置いていない。今後は、権利擁護の学ぶ機会として研修会に参加する意向が高い。		権利擁護の研修会の情報を収集し参加する意向が高く、入居者や家族への情報提供を行いたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に毎月1回、外出時の写真と請求書などを添え、家族に近況を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は運営推進会議で率直に述べていただける様に取り組んでおり、苦情などがある場合には、苦情対応マニュアルにそって迅速に対応できるように支援している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の離職はなく、スタッフの入れ替わりはほとんどない状況であるが、離職などが生じた場合は、入居者のダメージが最小限に抑えられる取り組みを行いたいと考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢など採用対象から排除しないようにしている。また、開設時より職員の離職がなく、職員が働きやすい環境づくりに努め、相談などは随時受けている。職員の能力向上のための研修は、今後の課題となっている。		職員の能力向上のための研修計画など、自己実現を支援するためのバックアップ体制を整える必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者に対する人権の考え方など、人権に関して学ぶ研修会など情報収集を行い、参加の機会を作ることが求められる。		「認知症の高齢者の人権の尊重とは」など、人権に関して研修参加の機会を作ることが求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の研修は課題となっているが、近隣のグループホームでの実習研修ができないか検討中である。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近郊の介護付有料老人ホームとのネットワークにより、毎月1回外出し、レクリエーション参加や食事を楽しむ機会を設け、交流・ふれあいを支援している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者や家族の希望を把握するように努め、必要に応じて他のサービスや施設を紹介している。入居する場合は、体験入居により、入居者と職員の適合性などを検討し、入居の際には、ゆっくりと時間をかけて話し、入居の可能性を検討し決定している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	花の水やりや新聞取りなど、役割を持っていただき、できることは行っていただく様に支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を採用し、思いや意向の把握に努めているが、さらに職員全員で思いや意向を深く掘り下げる取り組みが求められる。		センター方式に取り組み、思いや意向の把握に努めているが、介護計画へ反映されていない。入居者のどんな思いを生活の中で支援していくのか、介護計画と結びつけた支援内容の検討が必要である。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	医療情報の収集を行う必要があり、医療情報を介護計画に反映することが求められる。介護計画の短期設定の見直しが必要である。		介護計画の短期目標の設定を見直し、具体的な短期目標を設定する必要がある。また、その短期目標にそったモニタリングが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	状態の変化に応じて、関係機関との連携を図り、計画の見直しなど行っているが、医療情報などを参考に見直しを充実させる必要がある。		介護保険認定審査会の資料、医療情報なども参考にされ、個別の援助のための計画づくりが必要である。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者のADLの低下を防ぐために、訪問マッサージを利用したり、柔軟に対応するように努めている。また、介護付有料老人ホームネットワークとの連携により、毎週1回のレク参加など多様なふれあいや交流を支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医への通院は支援している。また、グループホームの主治医の往診も週1回行っており、日常における状態変化を逐一報告しており、不調の訴えや特変があった場合は、すぐに往診してもらえる体制を整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者や家族の意向を尊重し、ターミナルケアに取り組みたいと考えている。		できるだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図っていくが重要である。終末期における医療処置など関係者の具体的な支援内容を話し合っていくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	記録類の取り扱いは、事務所内に保管場所を決めており、個人情報の秘密保持を行っている。家族のように接する言葉かけや関係づくりを大切にしており、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者6人の定員のため、その日の天気の出掛けるなど、フットワークの軽さを活かした取り組みを行っている。また、入居者の一人ひとりのペースを尊重し、柔軟に対応できるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員の中に食生活改善推進員のメンバーがおり、入居者の好みを把握し、栄養バランスに配慮した美味しい食事づくりを行っている。入居者は食事の場面では、下膳や皿拭きを手伝っていただくなど、「食」を通じた役割の楽しさを感じていただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の曜日が決まっており、失禁などの場合は、その都度対応している。日によってシャワー浴も行っており、失禁があった場合には、シャワーを使い清潔を保っている。一人ひとりの意向や入浴の習慣に合わせた取り組みが求められる。		入浴日を決めるのではなく、個別の意向にそった入浴の支援が求められる。
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	センター方式の導入により、入居者の意向や思いを把握し、囲碁・将棋・花札など楽しみごとを支援している。		マンネリ化したり、職員主導の楽しみや役割になっていないかを振り返り、入居者の生活歴をさらに掘り下げたアクティビティの充実が求められる。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎週1回、定期的に介護付有料老人ホームでのレクリエーションや食事会に参加し、毎月1回市民センターの「ふれあい昼食会」に参加している。ファーストフード店などにも出向き、好きな物を自由に頼んでいただける様にしている。		新興住宅地に位置し、ショッピングセンターも近いことから、買い物の場面を作り、一人1回1,000円以内で買い物に行く買い物ツアー - を行うなど、外出の楽しみをさらに増やす取り組みを行ってほしい。
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	基本的に日中は施錠しないケアに取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域の消防の連絡協議会に参加し、火災など緊急時の協力をお願いを行っている。ホームの斜め前には、消防署員の方が住んでおり、災害時の協力をお願いしている。定期的には、避難訓練を年1回、応急手当を年1回行い災害対策に取り組んでいる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事や水分の摂取状況を把握するために記録を取り、入居者の1日全体の摂取量を把握している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	窓が大きく出窓があり、住宅地の風景が見え開放感のある空間となっている。また、家庭的な調度品が置かれ、外出先での入居者の写真も飾られ、家庭的な居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	パソコンなど使い慣れた物を居室に持ち込んでいる。また、居室は色違いの暖簾を掛け、間違いがないように配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			